

困難な状況にあるシングル女性への支援事業

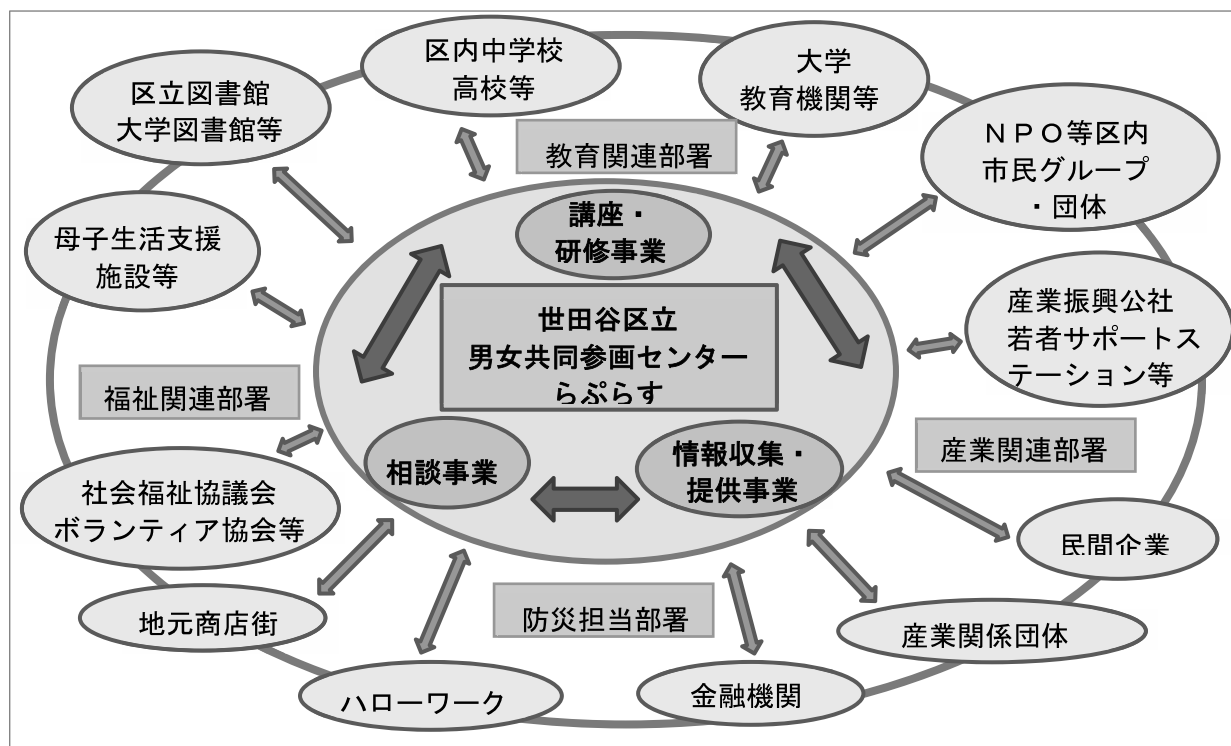
世田谷区立男女共同参画センターらぶらす
 (運営団体 特定非営利活動法人 NPO 昭和)

1. 世田谷区立男女共同参画センターらぶらすについて

世田谷区立男女共同参画センターらぶらす（以下、らぶらす）は、世田谷区における男女共同参画推進の拠点施設として位置づけられている区民利用施設で、昭和女子大学が設置した特定非営利活動法人 NPO 昭和が、世田谷区からの委託を受けて管理運営しています。

男女共同参画センターは、講座や研修など参加者を集めて実施する《講座・研修事業》と男女共同参画や女性の活躍に資する図書資料などを収集・提供する《情報提供・収集事業》、さらに悩みを抱える方からの相談に対応する《相談事業》の3つを密接に連携させながら、区民のニーズに応える各種事業を実施しています。らぶらすでも図表1に示すように、《講座・研修事業》、《情報収集・提供事業》、《相談事業》の3つを有機的につなげ、一体的で切れ目のない総合的な事業として提供していく一方で、事業実施にあたっては、庁内の関連部署や区内の関係機関のみならず、NPO など地域のグループ・団体、学校、企業、商店街・町内会などとの連携・協働を図っています。さらに、ここ数年は生きづらさを抱える人々が安心して集える場や、団体・グループが交流できる場など、区民の主体的な活動拠点としての役割も大きく期待され、居場所事業など新たな取り組みも始まりました。

図表1 らぶらすの事業推進体制



活動報告

具体的にらぶらすでは、**図表 2**に示すように、女性の就業・起業支援講座、男性のための子育て支援講座をはじめ、区内中学校・高校に出向いての学校出前講座など数多くの事業を実施しており、その数は年間 121 コマにのぼり、平成 28 年度は仮移転のために 1 か月間の休館があったにもかかわらず、らぶらすの事業に参加した方は、7,500 人を超えました。また、研修室などを地域のグループ・団体へ貸し出す事業も行っており、らぶらすの年間来館者数は 6 万人にのぼっています。

このようにらぶらすでは毎年数多くの事業を実施していますが、なかでも、経済大国にもかかわらず GGI¹が 144 か国中 114 位という、男性と女性の格差が極めて大きい日本の現状においては、困難な状況にある女性たちを支援する事業は欠かせないと考えています。

図表 2 平成 29 年度らぶらすの主な事業

| | |
|--|---|
| 1. 講座・研修事業 <ul style="list-style-type: none">・女性の就業・起業支援講座・男性のための子育て支援講座（ワーク・ライフ・バランス支援講座）・防災講座・地域活動関連講座・DV 等暴力防止関連講座 | 4. 広報事業 <ul style="list-style-type: none">・情報誌「らぶらすぶらす」の発行・ホームページ・SNS による情報発信・リーフレット、フライヤーの発行 |
| 2. イベント事業 <ul style="list-style-type: none">・起業ミニメッセ・らぶらすフェスタ・シングルマザー応援フェスタ・セクシュアル・マイノリティのためのフォーラム | 5. 相談・居場所事業 <ul style="list-style-type: none">・個別相談（セクシュアル・マイノリティ電話相談、女性のための起業・経営相談）・グループ相談（シングルマザーグループ相談）・居場所（セクシュアル・マイノリティ交流スペース、女性のためのニットカフェ） |
| 3. 情報収集・提供事業 <ul style="list-style-type: none">・図書資料の収集・提供・ギャラリー展示・シネマサロン・ライブラリーニュースの発行 | 6. 地域との連携事業 <ul style="list-style-type: none">・区民企画協働事業・学校出前講座事業・地元団体との連携事業（防災等） |
| | 7. 調査事業 <ul style="list-style-type: none">・学校出前講座《デート DV 防止》報告書 |

2. 女性の貧困

平成 28 年の労働力調査によれば、日本の雇用者数は男女合わせて 5,372 万人²。雇用者の男女比をみると、男性 2,926 万人（54.5%）に対し、女性 2,445 万人（45.5%）と、数の上では女性の職場進出が進んでいる様子がうかがえますが、男女別に正規、非正規雇用で働く人の割合をみると、男性は約 2 割（22.1%）が非正規雇用であるのに対し、女性は半数以上（55.9%）が非正規で、不安定な働き方の女性が多いことがわかります（総務省統計局「労

働力調査結果」平成 29 年)。

これを貧困という視点でみると、日本国民全体の相対的貧困率³は 15.6%ですが、子どもがいる現役世帯のうち、ひとり親世帯の相対的貧困率は 50.8%です(厚生働省「国民生活基礎調査」平成 28 年)。また、非正規で働く既婚者以外の女性(すなわちシングル女性)の相対的貧困率も高く、若年層(25~34 歳)で 29.7%、壮年層(35~44 歳)では 51.7%にのぼります(独立行政法人労働政策研究・研修機構「労働政策研究報告書 No.164 壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究」平成 26 年)。

実際、女性の非正規雇用者の年間収入をみると、100 万円未満が 45.1%、100~199 万円が 39.5%で、199 万円以下で働く女性が 84.6%にのぼっており(前出 総務省統計局調査)、非正規で働く女性は、収入も少ないことがわかります。母子家庭の母親の場合はさらに厳しく、母子家庭の母親の 81.8%が就業していますが、その 43.8%がパート・アルバイトなど非正規雇用者で、非正規で働く母子家庭の母親の年間収入は 133 万円にすぎません(厚生働省「全国母子世帯等調査」平成 28 年)。

3. らぶらすのシングル女性支援事業

(1) シングルマザー支援事業

GDP 世界第 3 位の経済大国である日本では、貧困問題は顕在化しにくかったのですが、21 世紀に入り、内閣府「生活に困難を抱える男女に関する検討会」(平成 20 年)での調査をはじめ、宮本みち子放送大学教授や阿部彩首都大学教授らの研究により、貧困など困難な状況にある女性への支援の必要性が認識されるようになりました。国は 5 年ごとに男女共同参画基本計画を見直していますが、平成 22 年策定の第 3 次男女共同参画基本計画で、初めて女性の貧困問題が重要分野として取り上げられることになりました。

こうした流れを受け、らぶらすでは困難な状況にある女性たちへの支援事業に力を入れることになりました。具体的にはシングルマザー支援事業と若いシングル女性支援事業です。シングルマザー支援事業については平成 21 年に開始しましたが、本格的に取り組み始めたのは平成 24 年度からになります。この年、シングルマザーの当事者団体である特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ(以下、しんぐるまざあず・ふぉーらむ)の協力を得て、シングルマザーのためのグループ相談会「ほっとサロン」を開始しました。

「ほっとサロン」は、少人数制(定員 8 人)の相談会で、子どものことや仕事のことなどの悩みを気軽に相談でき、同時に仲間と出会える場として、隔月に開催しています。相談員はしんぐるまざあず・ふぉーらむに所属するひとり親家庭相談員が務めています。

「ほっとサロン」の特徴の 1 つは、プレシングルマザー、すなわちまだ離婚が成立していない母親も対象にしていることです。行政の支援策は離婚が成立して初めて使えるというものが多く、実はどこからも支援を受けにくいプレシングルマザーの相談先こそが必要という当事者たちの声に応えたものです。プレシングルマザーのなかには「ほっとサロン」

活動報告

に参加することを同居する家族に知られたくないという人も少なくなく、らぶらすから連絡する場合の連絡手段をあらかじめ本人に尋ねておくことや、会場を非公開にして本人のみに知らせることなど、当事者たちが安心して参加できるように配慮しています。実際「ほっとサロン」参加者の約2割がプレシングルマザーです。

もう1つの特徴は、「ほっとサロン」開催中に参加者の子どもを預かる一時保育事業を行っていることです。らぶらすでは以前から講座事業では0歳から学齢前の子どもの一時保育を行っていましたが、相談事業でも一時保育事業を行うことにしました。子どもに気をとられることなく「ほっとサロン」のなかで交わされる会話に集中できると、母親たちからは大変好評です。「ほっとサロン」の開催ごとに、毎回、必ず一時保育の利用が複数あります。

また「ほっとサロン」では、らぶらすが収集しているシングルマザー、プレシングルマザーに役立つ情報を提供しています。世田谷区や東京都が発行している冊子をはじめ、しんぐるまざあず・ふぉーらむなど民間団体が発行しているリーフレットなども積極的に紹介し、併せてらぶらすが所蔵しているシングルマザー関連図書資料の紹介も行っています。

「ほっとサロン」参加者の声

- ・ いろんな話が聞いて良かった。自分の経験が他の人の参考になったことで自信がもえた。
- ・ シングルマザーの仲間がいて心強いなと思いました。皆それぞれ悩みがあって、悩んでいるのはひとりではないと感じました。
- ・ 子どもを預けることができたので、子どもに気兼ねなく話せてよかった。

「ほっとサロン」に加え、平成25年度からはシングルマザー、プレシングルマザーとその子どもたちを応援するための「シングルマザー応援フェスタ」を開催しています。この事業は母親向けには仕事や生活に関する講演会、弁護士や精神科医などによる個別相談、リラックスできるマッサージやメイクなどの施術、就活用スーツの提供、行政や民間団体からの関連情報の提供などを行い、子ども向けには工作コーナーや体を動かすコーナーなどを設けて、さらに親子でお茶やお菓子を楽しむカフェコーナーなども用意しています。日ごろ、仕事に、家事、育児に忙しいシングルマザーが子どもと一緒にゆっくりと楽しく過ごすことができるようプログラムを組んでおり、毎年50組以上の母親とその子どもが参加します。



ママが元気になれば子どもたちもあわせに！
いつもがんばっているシングルマザーとプレシングルマザーのみなさんが楽しめるイベントです。

シングルマザーフェスタ 2017

3月5日(日)
13:00~16:30

【会場】世田谷区立男女共同参画センターらぶらす
【参加費】無料

シングルマザーという生き方を120%応援します。
※ママが元気になれるようセミナー
※子どもたちの楽しいスペース
※ママがキレイになるコーナー
お友達と一緒にお友だちを誘ってきてください。

既読あり 5ヶ月～数年まで(3歳未満優先) (来予約 先着順)

できるはず 子育ての悩みを一緒に解決してあげたい。

シンママのためのセミナー 14:00~15:00
「シングルマザー」生活術 [講師]丸山裕代

ママと子どものグループ交流会 15:10~16:00
スーツ小物プレゼント

ビューティコーナー (日本語のみ) 13:30～16:30

相談コーナー 当日予約
親子でお茶づくり 当日予約

詳しい内容は裏面をのぞいてください。

共催：NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 協力：日本ロレアル株式会社
世田谷区立男女共同参画センターらぶらす 東京福祉大学
運営協力：特定非営利活動法人 NPO 財団
後援：世田谷区

L'OREAL Paris Kiehl's

「シングルマザーフェスタ」のチラシ

この事業もしんぐるまぎあず・ふおーらむと協働していますが、ほかに、株式会社みずほフィナンシャル・グループ、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、日本ロレアル株式会社などの民間企業、特定非営利活動法人全国女性会館協議会、セカンドハーベスト・ジャパンなどの非営利団体がこの事業に協力しています。また、この事業を実施することで、行政内での連携も進み、らぶらすの所管課である世田谷区生活文化部人権・男女共同参画担当課だけでなく、子ども・若者部子ども家庭課、保健福祉部生活福祉担当課、世田谷区社会福祉協議会（生活困窮者自立相談支援センター）などとシングルマザー支援についての情報交換や連携事業を行うようになりました。

「シングルマザー応援フェスタ」参加者の声

- ・セミナー、相談コーナーなど、このような場を望んでいた！と思えるような充実した内容でした。勇気と情報をいただきました。
- ・日ごろマッサージなどをゆっくり受ける時間はなく、よかったです。シングルマザーのイベントはあまりないのでうれしかったです。
- ・同じシングルマザーの方とお話する機会が得られたことがよかったです。

（２）若いシングル女性への支援事業

かつては、パートタイマーやアルバイトなど非正規で働くのは、結婚・出産後一旦は家庭に入り、再就職で仕事に就くという既婚女性が多かったのですが、最近では10代から30代の女性たちの間でも非正規雇用がふえてきました。らぶらすではシングルマザー支援と共に、若いシングル女性の就業支援事業を開始し、平成23年度に「悩めるガールズ仕事探し応援講座」（以下、「ガールズ応援講座」）を実施しました。

対象は働きづらさに悩む10代から30代のシングル女性です。2か月間にわたる18回の連続講座で、前半はパソコンの基本操作を身につけることによって就業の可能性を広げることを目指し、後半は先輩との座談会や職務経歴書の書き方、模擬面接、就活メイクなど、就業への具体的な準備となるように組み立てています。困難な状況にある若いシングル女性を対象とした調査によれば、対象となった15歳から35歳の、現在学校にも仕事にもつながっていない女性たちの「苦手なこと」として、「人とのコミュニケーション」が第1位にあがり、次いで「パソコン操作」があがっています（横浜市男女共同参画推進協会『若年女性無業者の生活状況調査』平成20年）。こうした調査結果や他の男女共同参画センターで行われていた先行事業を参考に、らぶらすの「ガールズ応援講座」もパソコンの基礎操作の習得を含む上記のプログラムとしました。

「ガールズ応援講座」の参加者は20代後半から30代後半が大半で、就業経験はあるが、ワードやエクセルを使ってビジネス文書を作成するといったパソコン操作の経験のない人

が多く、離職の理由は、パワハラや人間関係でのつまづき、体調を崩したなどがあげられました。自分の頑張りが足りなかったから、与えられた仕事がこなせなかったからなど自分を責め、自己肯定感が低い人が多く見受けられました。そして、そうした悩みや困りごとをどこにも相談できずひとりで抱えてしまい、さらに自分の今後の職業生活についてもじっくり考える機会がなかった、などの共通項がみえてきました。

「悩めるガールズ仕事探し応援講座」参加者の声

- ・ 人見知りの私でしたが、徐々にまわりの人と話す自分に気づいて、自信が持てました。このような様々な体験ができる講座は他にないと思います。
- ・ この講座は、気持ちの良い、楽しい、空間でした！！「私」にとって、そして「仕事探しをする私」にとって、本当に力強い、大切な場所、時間、そして人と出会うことができました。
- ・ 今回の講座の中で紹介いただいた経理実務の講座を受講しました。週5日2週間の講座はなかなか大変でしたが、無事終わることができました！

そこで平成 25 年度からは、若いシングル女性の支援に定評のある臨床心理士を講師に招き、固定的な性別役割分担規範が強い日本の女性を取り巻く社会状況や自分自身の心のありようとそのケアなどを学ぶプログラムを加えました。さらに平成 28 年度からは、対象をおおむね 40 歳以下に広げ、派遣や契約、パートタイマーなど非正規で働くシングル女性を対象に、今後の働き方、生き方を考える「40 歳！非正規で働くシングル女性のための働き方再点検講座」へとプログラムを作り直しました。この講座は(公財)世田谷区産業振興公社からの委託事業として実施しており、講座終了後も講座参加者は引き続き(公財)世田谷区産業振興公社のキャリアカウンセラーに働き方や生き方についての相談を受けることができるようになっていきます。

**40歳！非正規で働く
シングル女性のための
働き方再点検講座**
わたしの強みをみつけよう

非正規で働くシングル女性にとって「40歳」という年齢は、
 ころから少しずつ変化した変化に気づき、就職についての悩みごとが増えたり、
 これからの不安がリアルに感じられるようになってきた。」「
 「少しでも長く働きたいために、今からできることあるかな?」
 これらを考える前に、まずは自分のことを再点検。
 今自分が持っているものをきちんと把握して、
 あなたの未来に活かす働き方のヒントを見つけませんか?

●開催日時：2月3日(金) 午後1時30分～4時30分
 ●会 場：三茶おしごとカフェセミナールーム
 (世田谷区大字2-15-7 世田谷区産業振興センター2階)
 ●講 師：講師おかり(おんぼろ工業主業、キャリア・カウンセラー)
 ●対 象：おしごと40歳以下の非正規(派遣・パート・契約など)で働くシングル女性
 ※シングルマザーを優先
 ●定 員：20人(先着順)
 ●参加費：無料
 ●申し込み：1月5日(木)午前10時から、電話・FAX、または、らぶらすのホームページ
 から電子メールで受け付けます。
 ※FAX・メールの受付は、①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④現在の働き方(働いている・
 求職中)を明記してください。

申し込み・問い合わせ先 世田谷区立男女共同参画センターらぶらす
 〒154-0004 東京都世田谷区大字1-12-40 グレートエビル3階
 東京都世田谷区 世田谷区立男女共同参画センターらぶらす 就業・求職
 就業バス：小田急江ノ島線「新町三丁目」下車(小田急江ノ島線「世田谷駅」より徒歩1分)
 TEL 03-6450-8510 FAX 03-6450-8511
 らぶらすのWebサイト：http://www.laplace-setagaya.net
 らぶらすHP http://www.laplace-setagaya.net
 世田谷区HP http://www.setagaya-city.jp/

「40歳！非正規で働くシングル女性のための働き方再点検講座」のチラシ

「40歳！非正規で働くシングル女性のための働き方再点検講座」参加者の声

- ・ 自己肯定感を育ててもらったと思います。家族や友人では、なかなか話せなかったり、解決できないことをこのセミナーで教えていただきました。
- ・ みなさんが同じことで悩み、苦しむ、頑張っているのを知りました。つらいのは一人ではないと勇気がもてました。
- ・ 自分の強みがみわかりました。仕事でへこんだ時も、立ち直ることができそうです。

4. これからの取り組み

らぶらすでは上記 2 つの事業を通して、困難な状況にあるシングル女性の支援を行ってきましたが、その基本となるのは多様な生き方、暮らし方、働き方を応援していくという考え方です。世田谷区立男女共同参画センターが目指す男女共同参画社会とは、「一人ひとりの人権が尊重され、自らの意思にもとづき、個性と能力を十分に発揮できる社会」と定義されています（「世田谷区第二次男女共同参画プラン」平成 29 年 4 月策定）。このプランには「すべての人が尊厳をもって生きることができる社会の構築」が基本目標の 1 つとして掲げられ、シングルマザーなど困難な状況に直面する女性を支援する施策がうたわれています。

またこのプランでは、世田谷区における男女共同参画推進の拠点施設として、らぶらすの機能強化が述べられています。らぶらすは現在、DV 被害者支援や子育て支援、生活困窮者支援などのために設置されたさまざまな会議へ出席する機会が増えています。らぶらすは今後、**図表 1** に示すように、内部にあつては《講座・研修事業》、《情報収集・提供事業》、《相談事業》を密接に連携させつつ、地域の関連機関とのネットワークをさらに進め、男女共同参画社会の実現に向けて区民ひとり一人に役立つ事業を実施していきたいと考えています。

[注]

¹ Gender Gap Index (ジェンダー・ギャップ指数)。世界的企業や団体が加盟する公益財団である「世界経済フォーラム」が毎年算出する各国の男女格差を測る指数。経済、教育、政治、保健の 4 分野のデータから作成される。

² 統計表の数値は、表章単位未満の位で四捨五入してあるため、また、総数に分類不能又は不詳の数を含むため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しない。(労働力調査 調査結果利用上の注意 統計表を見る上での注意 より)

³ 世帯の可処分所得をもとに子どもを含む国民一人ひとりの所得を計算し、中央値の 2 分の 1 に満たない人の割合をいう。日本のひとり親世帯の相対的貧困率は OECD 加盟国 (36 か国) では最下位。